

# ◆第1章◆ FCCって何やねん

日時：2004（平成16）年10月29日（金）18:30～20:30  
ところ：関西支部会議室  
メンバー：

## 池亀建治

IKEGAME Kenji  
特定非営利活動法人PFI協会関西事務所所長

## 河田恵昭

KAWATA Yoshiaki  
京都大学防災研究所教授

## 隅野哲郎

SUMINO Tetsuro  
大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所次長

司会：

## 西田純二

NISHIDA Junji  
(株)社会システム総合研究所 代表取締役

特別参加：

## 川谷充郎

KAWATANI Mitsuo  
神戸大学工学部教授・関西支部幹事長

## 三村 衛

MIMURA Mamoru  
京都大学防災研究所助教授・元FCC代表幹事

特集

FCCとは何者であるのか、なぜ設立されねばならなかったのか、その理念や活動の歴史などについて、草創期から関わったメンバーによる座談会によってその姿を紹介する。

## 第1部 FCCの足跡

### ◇FCC発足

河田 実は、シビル・コスモスというのは僕が命名したんです。これは全国大会のキャッチフレーズ募集で、「土木は工学の工をとらないと、これからはだめになるよ。」ということで採択された「土木学」。それを英訳するときにシビル・コスモスとつけた。全国大会は「土木学」の名前でいったんだけど、その後で、土木の集いというのは社会的に認知されたものにしなければいけないということで、活動の名前をフォーラム・シビル・コスモス (Forum Civil Cosmos) って



座談会の状況



河田恵昭 氏

つけた。土木は当時3Kとか6Kとか言われてた時代じゃない。ジェネラリストがいいのか、スペシャリストがいいのかというような議論もいっぱいあってね。そういうものを全部ここで、一から考え直してみようと。それには土木の専門家だけでやってはいかんから、いろんな関連分野の人に集まってもら

って、知恵を出し合おうじゃないか、という動きで始まったのがこの活動なんだ。

### ◇なぜ14年間も活動が続いているのか？

河田 それは活動自体が面白いから。本人にとって面白くてためになる。僕の今の生き方なんて、まさにその延長上にあってね。FCCでやってたことが財産になってる。土木の連中、みんな元気ないでしょう。僕は元気。新しい分野がどんどん開けてる。新しいことというのは全て異端から始まるんだ。異端が時間をかけてメインになる。そのプロセスって大変大事なの。

### ◇当時の話題は？ どんなことを討議していたのか？

隅野 当時のフォーラムでお話した一例を挙げると、これからの土木を考える上で、「内なる啓蒙」のために「土木は美しいか」というテーマ。ちょうどその頃の土木っていうものがどういうふう在世間に映っていたのかというような問題点からしゃべったわけです。PRと宣伝がどう違うのか、本来の意味のPRを土木屋がしないといけないのと違うか、PRというPublicとのRelationをどうするのかなども議論しましたね。もう一つは、この時から3Kというのが一つのテーマになりました。どういう3Kかというと、「化粧美人」と「健康美人」と「心美人」です。「化粧美人」は何かというと、汚いものでも上に化粧すれば美しく見えるじゃないか。それを一方的にアピール、宣伝するののも一つのやり方だと。「健康美人」というのは化粧することではなく、



隅野哲郎 氏



出版物の一部